

当面する問題 上田尚一

図1は、関西地方の200高校の「進学者の合格大学別」の情報について、数量化3類によって見出された主成分スコアをクラスタリングした結果です。

おおまかにいえば、左下から上、そして右下の順に6区分に分けられており、その番号順が“いわゆる偏差値ランク”に対応しているものと解釈できます。また、図2は、これらの区分における合格大学の分布を比較したものです。

91年度と92年度のデータを変数区分方向に連結してクラスタリングしています(表示は92年度分のみ)から、状態の年次変化をみることができます。そして、2つの図の配置がよく一致していることから、「クラスター区分を決める要因とその効果」がほとんど変わっていないことが察知できます。

我々大学関係者は、これらの図について、「それを導出した手法」ではなく、「それが示唆する事態」に関心をもつでしょう。すなわち、進学競争がもたらした「偏差値による輪切り現象」が、18歳人口急減を機にどう変わるかを、「データが語っている」からです。ヒトゴトではなく、私の属する大学がどうなるか、そして、どんな学生が入ってくるかが、気になります。

この例にかぎらず、分類は、手法の数理、手法の適用計画、結果のインタープリテーションなど種々の断面にかかわっている研究者の共同研究や知識交流があってはじめて、成果をあげ得る研究分野です。

96年に誘致するIFCS日本大会では、こういう知識交流が期待されます。特に、種々の問題分野で活躍しているメンバーを多くもつわがJCSは、幅広い話題を提供することによって、貢献できると思います。

そういう話題を国際学会で提供することは簡単ではありません。たとえば日本人ならすぐわかる「輪切り現象」という言葉を外国の人に理解してもらうには、日本の社会背景について、ていねいに、「説き明かしていく」ことが必要です。

伝達し易い「数理の話」にかたよることなく、幅広い応用分野をカバーする会合にしようと考えた場合、このへんが、IFCS日本大会の運営の成否のカギになるでしょう。

いずれにしても、多くの分野から大勢の方に参加していただくことが先決問題です。

参加を予定してご準備いただくことを期待しております。

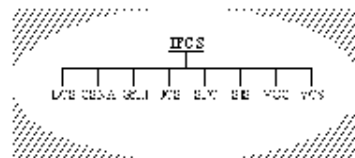
(JCS会長; 龍谷大学 経済学部)

< 図 1 >

< 図 2 >

< 本号に掲載の記事 >

- | | |
|----------------------|---|
| ・巻頭言 | 「当面する問題」上田尚一 |
| ・通常総会記録 | 平成4年度、5年度総会 |
| ・運営委員会記録 | 平成3・4年度(第2回)、
平成5・6年度(第1回) |
| ・幹事会記録 | 平成3・4年度(第3回、第4回、
第5回)
平成5・6年度(第1回、拡大第1
回、第2回) |
| ・役員改選結果の報告 | 会長、運営委員会委員、会計監事、
幹事会(幹事長、幹事)、
IFCS理事会委員、IFCS-96担当委員 |
| ・平成3年度決算書 / 平成4年度予算書 | |
| ・平成4年度決算書 / 平成5年度予算書 | |
| ・シンポジウム記録 | 第10回、第11回 |
| ・研究報告会記録 | 第9回、第10回 |
| ・IFCS関連だより | 第1回、第2回
IFCS-93に参加して |
| ・他学会だより | |
| ・事務局から | |



通常総会記録

第10回議事録（平成4年度）

日 時：平成4年7月18日（土），17時～18時

場 所：統計数理研究所 研修室

出席者：石塚隆男，今泉忠，上田尚一，大隅昇，大滝厚，小野山敬一，奈良繁雄，野口岩男，芳賀敏郎，馬場康維，松田芳郎，松原義弘，宮原英夫，矢島敬二（以上14名，五十音順）

< 議 事 >

1. 会長挨拶

上田会長より挨拶があった。所属会員の研究分野の特色を生かした会に発展させたいこと、IFCS日本大会への会員の協力を依頼したこと、などが話された。

2. 議長選出

議長の選出を行い、奈良繁雄会員を選出。

3. 平成3年度事業報告

配布の総会資料にしたがって、矢島幹事長から以下の事項についての報告がなされ、いずれも承認された。

1) 会の名称を日本分類学会と変更した件についての報告。運営委員会によりこれが承認されたことが報告された。これの経緯についての詳細は会報14号を見られたいとの説明があった。これについて承認を得た。

2) 第8回シンポジウムおよび第7回研究報告会の開催についての報告。とくに研究報告会は、日本統計学会の創立60周年記念協賛ということで例年より時期を繰り上げ、かつ他のシンポジウムの開催にあわせて実施したが、この効果があって参加者が51名と多かったことが報告された。なお、この詳細は会報14号にある。

3) 第5回IFCS国際大会の開催が、昨年のIFCS-91 エジンバラ大会の評議員会で日本と確定したことが報告された。また、これについて会員諸氏の協力をお願いしたい旨の要望があった。

4) IFCS会報12号・13号が、発行され、JCS会員にも配布されたことが報告された。

4. 平成3年度決算報告

大隅庶務幹事より資料にもとづき報告された。さらに、大滝厚会計監事から、会計監査の結果についての報告がなされた。これらについて質疑応答の結果、決算書が承認された。さらに、松田芳郎統計学会理事長より、当学会に対し、日本統計学会60周年事業への協力に対してお礼が述べられた。

5. 平成4年度事業計画

矢島幹事長より資料にもとづき説明がなされた。幹事会開催、運営委員会開催、総会開催、さらに本年度研究報告会を12月25日（金）あるいは26日（土）に開催の予定である旨が述べられた。これにつき質疑応答の結果承認された。

6. 平成4年度予算案の説明

このことにつき、大隅庶務幹事より資料にもとづき説明がなされ、若干の質疑応答の後、承認された。

7. IFCS関連事項の報告

矢島幹事長より、このことに関連して以下の事項についての報告がなされた。

1) 若手研究者に対する表彰制度を設けるというIFCS会長からの提案についての討議が行われてきたこと、受賞対象者の資格は35才以下であること、各国の分類学会からの推薦状ないしは推薦者を必要とすること、IFCS-93 パリ大会から実施したいこと、受賞者は記念講演を行なうこと、などが討議されてきたこと、そして具体的に実施の予定であることなどが報告された。

2) IFCS国際研究集会の大会運営方法について、ドイツ分類学会のBockを主査とする検討委員会（4名で構成）の検討結果が提案書（ガイドライン）として提出されたことが報告された。

3) IFCS-95 東京大会に関連して、その組織（各種委員会の構成）などの立案、進め方などについての計画的な検討が必要であることが説明され、これを了承した。とくに、アジア地域での開催であることを特色とし、韓国、中国などへ参加を呼びかけること、北米分類学会からの申し入れであるチュートリアル・セッションの開催や資金調達のための関連セミナー開催などについての計画があることが報告され、これらを了承した。

（記録：今泉忠，大隅昇）

第11回議事録（平成5年度）

日 時：平成5年7月30日（金），17時～18時

場 所：統計数理研究所

出席者：今泉忠，上田尚一，浦狩保則，大隅昇，小野山敬一，立浪忍，奈良繁雄，袴田共之，馬場康維，矢島敬二（以上10名，五十音順）

< 議 事 >

1. 新会長からの挨拶

役員改選の結果、会長と会計幹事が信任された旨の報告がなされた。これにともない、上田新会長から就任挨拶があった。特にIFCS-95に向けての日本分類学会の運営についてのお願いがなされた。

2. 議長選出

議長の選出を行い、袴田共之会員を選出。

3. 平成5・6年度役員紹介

幹事長として馬場康維氏（統計数理研究所）が運営委員会において選出された旨が報告された。新幹事長紹介後他の役員についての紹介がなされた。

4. 平成4年度事業報告(案)および決算報告(案) 矢島前幹事長から事業報告(案)がなされた。また、大隅前庶務幹事より、決算報告(案)がなされた。また、会計監査報告がなされた。
5. 平成5年度事業計画(案)および予算(案) 馬場幹事長より事業計画(案)について説明がなされた。また、今泉庶務幹事より予算(案)について説明がなされた。支出に対して収入が少ないことについて指摘があり、会費増額などの案が提案された。これについて、IFCSの他学会と関連させて検討することにした。
6. IFCS関連事項 IFCS-95について、大会概要の説明があった。開催時期、開催場所、参加人員、役員構成などについて説明がなされた。
7. その他 入退会者について報告がなされた。
(記録:大隅昇)

(注) IFCS-95大会は、その後の討議により、平成8年(1996年)3月27日~30日に神戸国際会議場で開催することが確定いたしました。したがって、本会報では「IFCS-96大会」と呼称しております。

運営委員会記録

第2回議事録(平成3年・4年度)

日 時: 平成4年7月18日(土), 11時~13時

場 所: 統計数理研究所 新館特別会議室

出席者: 今泉忠, 岩坪秀一, 上田尚一, 大隅昇, 小西貞則, 馬場康維, 宮原英夫, 村上征勝, 矢島敬二(以上9名, 五十音順)

<議 事>

1. 会の成立の確認
今回の運営委員会に先立ち、開催通知を運営委員20名に送付の結果、8名から委任状を受理している。これに上の出席者を加え、運営委員会の成立を確認した。以下、配布の資料の議題に従って議事を進めた。
2. 会長挨拶ならびに議長の確認
上田会長の挨拶に続いて、会則により、運営委員会の議長は会長が務めることを確認、この会の議事を進めることを確認した。
3. 会則の変更について
会の名称が学会へと変更することに伴う会則変更について、大隅庶務幹事より説明があり、これが承認された。
4. 第10回通常総会について
このことについて、本日のシンポジウムの後に開催予定であり、これに必要な関連資料の確認を求めるために、大隅庶務幹事から以下の説明がなされた。

- 1) 平成3年度決算(案)および同事業報告(案)について
資料にもとづき、平成3年度決算(案)および同事業報告(案)について説明がなされた。決算(案)については2名の会計幹事(大滝、塩見の両氏)により監査済みである旨の報告がなされた。討議の結果、この決算書(案)が承認された。同じく、同年度事業報告(案)について報告が矢島幹事長なされこれも了承した。とくに、統計学会協賛となった第8回研究報告会への参加者が例年に比べ多かった旨の報告がなされた。
- 2) 平成4年度予算(案)および事業計画(案)について
大隅庶務幹事より平成4年度予算書(案)についての説明がなされた。収入算出の根拠、支出執行予定、あるいは新年度とすすでに執行済みの事項などについての説明がなされた。これを討議の結果了承した。さらに、事業計画(案)についての説明が矢島幹事長からなされた。とくに、データ解析セミナー開催(日本能率協会主催)の催行形式などについて検討の結果、これが了承された。
5. IFCS関連事項について
 - 1) 矢島幹事長より、IFCS関連事項についての報告がなされた。
Newsletter 5号の発行予定、フランス(パリ)で開催予定のIFCS-93大会の進捗状況、などについての説明があった。
 - 2) IFCS現会長である Dayからの提案である表彰制度についての説明があった。その主旨は、若手研究者に対する表彰制度であること、各国の分類学会からの推薦状ないしは推薦者を必要とすること、IFCS-93パリ大会から実施したいこと、そのとき受賞者は記念講演を行なうこと、などが討議されてきたこと、そして具体的に実施の予定であることなどが説明された。これに対する日本側からIFCS会長宛ての回答として、とくに主旨に異論はないこと、審査対象者の資格についての平等性が確保されることが望ましいこと、年齢制限に該当するJCS会員の対象者が限定されてしまうこと(35才以下の研究者に対して表彰を行なう)などについての議論がなされた。なお、この件について、IFCSの担当委員であるGordon教授からの問い合わせ(候補者推薦)に対して速やかに回答の必要があることが確認された。
 - 3) IFCS日本大会に向けて行なうべき検討事項の内容についての報告がなされた。とくに大隅庶務幹事より、組織委員会(国内、国外)、実行委員会の委員構成などについて早急に検討する必要がある旨の意見が提出さ

れた。さらに、開催に必要な費用の調達方法、見積もり金額などについて、質疑応答が行われた。この件について、各運営委員の意見、提案などを期待する旨を了承した。とくに、アジア地域での開催であることを特色として打ち出し、韓国、中国などへ参加を呼びかけることなどを考慮したい旨の要望が述べられた。また、日本の独自性を生かしたプログラムとしたい旨の要望があった。さらに、北米分類学会からの申し入れであるチュートリアル・セッションの開催や資金調達のための関連セミナー開催などについての計画があることが報告され、これらを了承した。

6. その他

- 1) 入退会者について報告がなされた。
- 2) 日本行動計量学会が、創立20周年を祝って9月20日に公開講演会を開催すること、またセミナーの開催を計画していること、これに協力願いたい旨の発言が岩坪委員からなされ、これを確認した。
- 3) JCSの今後の運営方法、IFCS日本大会の進め方などに関連した自由討議を行った。
(記録：今泉忠、大隅昇)

第1回議事録(平成5年・6年度)

日時：平成5年7月30日(金)、11時～12時

場所：統計数理研究所 新館特別会議室

出席者：今泉忠、上田尚一、大隅昇、片山清志、小西貞則、高倉節子、袴田共之、馬場康維、林知己夫、松田芳郎、矢島敬二、柳井晴夫(以上12名、五十音順)

<議事>

1. 新会長からの挨拶

小西選挙管理委員から、会長と会計幹事が信任された旨の報告がなされた。また、運営委員についても上位20名を選出した旨の報告がなされた。これに伴ない、上田新会長から就任挨拶があった。特にIFCS日本大会に向けての日本分類学会の運営への協力についてお願いがなされた。

2. 幹事長の選出

幹事長(案)として馬場委員が会長から推薦されこれを了承した。

3. 幹事の選出

馬場幹事長より以下の幹事が推薦され、これが了承された。

庶務幹事 今泉 忠(多摩大学)

広報幹事 林 篤裕(岡山県立大学)

また、IFCS日本大会のために特別に担当幹事を置くこと、また、その担当幹事を大隅委員とする等の案が幹事長より出され了承された。また、馬場幹事長より、IFCS日本大会のために、拡大幹事会として、IFCS理事会委員(林知己夫、田中豊)も含めるとする案が出され、検討の結果了承された。

4. 平成4年度事業報告(案)および決算報告(案)について

矢島前幹事長から事業報告(案)の説明がなされ了承された。また、大隅前庶務幹事より決算報告(案)がなされ了承された。

5. 平成5年度事業計画(案)および予算(案)について

馬場幹事長より事業計画(案)について説明がなされた。また、今泉庶務幹事より予算(案)について説明がなされた。支出の評価について質疑があった。会費の増額やセミナーやチュートリアルの開催などを行なうのはどうかとの意見が出された。セミナー開催などを行なう方向で検討することにした。

6. IFCS関連事項

IFCS-93(パリ大会)について説明があった。また、IFCS日本大会について、現在までの作業について説明があった。また、他学会からの協賛、大会参加費等について検討された。

7. その他

入退会者について報告がなされた。

幹事会記録

第3回議事録(平成3・4年度)

日時：平成4年8月11日(火)、15時～16時30分

場所：統計数理研究所、新館特別会議室

出席者：今泉忠、上田尚一、大隅昇、田中豊、馬場康維、林知己夫、矢島敬二(以上7名、五十音順)

<議事>

1. 前回幹事会議事録の確認

今回の議題の関連情報を再確認する意味で、前回のIFCS拡大幹事会議事録の通読確認を行い、本日の議題であるIFCS日本大会の運営方針についての討議を進めることとした。

2. IFCS日本大会の進め方

開催時期、日本の近隣諸国への参加呼びかけ、開催場所、チュートリアル・セッションの計画、Proceedingsの発行、プロモーション活動などについて討議した。

3. 各種委員会の構成について

この件についてIFCS委員会からの案、ならびにIFCS-93パリ大会のアナウンス・リーフレット掲載内容などを参考に検討した。関連委員会を以下のように置くことを確認した。

・大会実行委員長(Conference President)

・大会プログラム委員会(SPC: Scientific Program Committee)

- 国際大会プログラム委員会(ISPC: International Scientific Program Committee)

- 国内大会プログラム委員会(LSPC: Local Scientific Program Committee)

・実行組織委員会(LOC: Local Organization Committee)

また、関係者の間で決められる範囲で役割分担を検討し、以下のように委員会委員を決定した。

- ・大会実行委員長
林知己夫
- ・国際大会プログラム委員会
矢島敬二(委員長), 田中豊(副委員長)
- ・国内大会プログラム委員会
大隅昇, 馬場康維, 今泉忠
- ・実行組織委員会
林知己夫, 上田尚一, 矢島敬二, 田中豊, 大隅昇(委員長), 馬場康維(副委員長), 今泉忠(副委員長)などJCS幹事会関係者を中心として編成

なお、委員構成の詳細案(とくにSPC)を次回IFCS拡大幹事会までに作成することとした。

4. 大会運営費の調達について
時間の関係上十分に討議できなかったので次回IFCS拡大幹事会での主たる議題とすることとした。
5. その他
ポスター, リーフレット, アナウンスメント(call for papers), シンボル・マークあるいはロゴ作成, などについての検討を必要とする。
6. IFCS-AWARDS(表彰制度)について
表彰制度について"賛成"である旨の返事を会長名で回答することとした。

第4回議事録(平成3・4年度)

日 時: 平成5年2月15日(月), 15時~17時30分
場 所: 統計数理研究所, 210号室
出席者: 上田尚一, 大隅昇, 林知己夫, 矢島敬二
(以上4名, 五十音順)

<議 事>

1. 平成5・6年度役員改選について
来年度から, すべての役員が改選されることから, その改選手続きの方法, 進め方について討議した。なお, 役員改選に際しては, 1995年に日本で開催のIFCS大会の運営・進捗を十分に配慮したものとすることを了承した。
2. IFCS日本大会の進め方について
 - 1) 開催時期の検討
 - 2) 大会役員について: 前回の幹事会で決定したように, 大会実行委員会の構成及び委員の役割分担を確認した。加えて, 国際大会プログラム委員会(ISPC: International Scientific Program Committee)のメンバーについて討議した。各国委員に対して特別セッションのトピックスのアンケートを行なうこと, 国内のLSPC委員候補に対しては委嘱状を送付することなどを了承した。
 - 3) その他, 開催場所, 大会参加費, チュートリアル・セッション, などにつき討議した。
3. その他
 - 1) 新入会員, 退会者の承認。

- 2) 日本学術会議, 統計学研究連絡委員会委員長である渋谷政昭氏からの学会宛の照会事項についての検討。これは, 「統計学関連学会共通の名簿作成」についての意見を求めるアンケートであるが, これについて幹事長, 庶務幹事で話し合い, アンケートへの回答案ができたところで幹事の了解のもとに回答を行なうこととする。

第5回議事録(平成3・4年度)

日 時: 平成5年5月7日(金), 15時30分~18時
場 所: 統計数理研究所, 210号室
出席者: 大隅昇, 馬場康維, 林知己夫, 矢島敬二
(以上4名, 五十音順)

<議 事>

1. 第11回シンポジウムについて
このことについて, 小野山敬一氏(帯広畜産大学)に, シンポジウム開催のオーガナイザをお願いしていることが, 大隅庶務幹事から説明された。現在の予定は以下の通り。①日時: 7月30日(金), ②共通テーマ: 生物分類をめぐるいくつかの話題について(仮題), ③オーガナイザー: 三中信宏, 小野山敬一の両氏, ④発表者: 三中氏を含めて4名程度, ⑤JCS会員だけでなく, 関連する他学会へも可能な限り通知を出す。
2. 平成4年度会計決算について
このことについて, 資料に従い大隅庶務幹事から説明がなされ, 以下の事を承認した。
 - 1) 実質的に若干の赤字となったが, 繰越金を考慮すれば, 赤字は免れる。
 - 2) 従来のように, 繰越金の明示, 補足説明等を決算表の欄外に付けること。
 - 3) 7月30日開催の運営委員会, 通常総会に向けて, 会計監査を受けられるよう準備を進めることとする。
3. 平成5・6年度役員改選について
平成5年度からの新役員の改選作業の進捗状況について以下の報告がなされた。
 - 1) 書状による運営委員会開催の結果について: 会長候補の承認を会則に照らして運営委員会として, 上田尚一氏を会長候補として推薦することを承認した。
 - 2) 運営委員会委員候補の推薦: 現運営委員からの新運営委員候補推薦の集計結果が資料にしたがって説明された。これに幹事会としての推薦候補を加えた運営委員候補を確認した。
 - 3) 選挙管理委員の選出: 小西貞則, 片山清志の両氏をお願いすることを了承した。
 - 4) 会計監事: 塩見正衛, 大滝厚の両氏をお願いすることを了承した。
 - 5) 幹事会の運営方法とくに, 新幹事会の構成について検討した。このことは, また, IFCS日本大会への対応を配慮して, 従来通りIFCS理事会日本代表委員ならびに開催関

連委員会委員として、林知己夫（大会実行委員長）、田中豊、今泉忠（IFCS理事会日本代表委員）、矢島、大隅、馬場の各委員を含めた拡大幹事会として、学会運営を進めることを確認した。

4. IFCS日本大会の進め方について

- 1) 大会役員構成についての確認：当面必要となる委員会（とくに、SPC:Scientific Program Committeeの2つの委員会、International Scientific Program CommitteeおよびLocal Scientific Program Committee）の委員構成を再確認した。
- 2) 委員委嘱依頼状の作成と依頼：国内ならびに国外の委員への委嘱状を検討した。まず、国内委員（50名）に対する委嘱依頼状を大隅幹事が作成の案文にしたがって検討した。
- 3) International Scientific Program Committee委員候補への依頼状の発信の手順について確認した。

5. IFCS Awards Committee関連事項

田中IFCS担当委員から送付の資料に基づき、表彰制度による候補者の選考経過についての確認をした。

第1回議事録（平成5・6年度）

日時：平成5年7月30日（金）、10時～11時

場所：統計数理研究所、特別会議室

出席者：今泉忠、上田尚一、大隅昇、馬場康維、矢島敬二（以上5名、五十音順）

<議事>

1. 平成5・6年度 学会運営について
会長として上田尚一氏（龍谷大学）が信任された旨の報告がなされた。また、平成5・6年度幹事会構成（案）について検討の結果了承された。
2. IFCS日本大会について
この件について、現在までの作業状況などが報告された。
3. 運営委員の選出
運営委員と会計監査幹事について、選挙の結果が報告され、これを了承した。

第1回拡大幹事会議事録（平成5・6年度）

日時：平成5年8月11日（水）、16時05分～19時

場所：統計数理研究所、特別会議室

出席者：今泉忠、上田尚一、大隅昇、田中豊、馬場康維、林篤裕、林知己夫、矢島敬二（以上8名、五十音順）

<議事>

1. IFCS日本大会の運営とJCSとの関連について
 - 1) IFCS日本大会開催に関連の議題については、林知己夫大会実行委員長が議長を務める。
 - 2) JCSの運営自体に関わる事項の討議は従来通り、幹事会を中心に運営を進める。

3) IFCS日本大会については大会実行委員長を中心に各役務を再確認し、それぞれの役割分担を果たすようにする。

4) IFCS日本大会準備委員会として、原則として1ヶ月に一度の定期会合を開く。また、開催日に近付いた時期から2週間に一度程度で会合を持つ。以上の了解のもとに、以後の議論を行なった。

2. IFCS日本大会の進め方について

IFCS-93パリ大会におけるIFCS理事会でのIFCS-96大会説明資料を中心に討議した。

1) International Scientific Program Committee委員宛てへの委嘱状の検討を行なった。

2) (株)アイ・シー・エス企画作成の資料に基づき、開催場所と開催日時の検討を行なった。会場は「神戸国際会議場」とし仮予約を行なう（確定）。

3) この他に、大会参加費の検討、大会概要説明資料（プロシヤ）の内容、IFCS Council Committeeへの対応、スケジュール表の再調整、今後の情報交換の方法、特別会計の設置の方法などについて検討した。

第2回議事録（平成5・6年度）

日時：平成5年9月29日（水）、17時20分～19時30分

場所：統計数理研究所、特別会議室

出席者：大隅昇、田中豊、馬場康維、林篤裕、林知己夫、矢島敬二（以上6名、五十音順）

<議事>

拡大幹事会としての参集であったが、前半をIFCS-96大会準備委員会第1回会合とし、後半を平成5・6年度第2回幹事会とすることを初めに確認した。この項では幹事会関連事項を掲載し、IFCS-96大会準備委員会議事録は、本号の「IFCS関連だより」に掲載する。

1. 第10回研究報告会の日程
開催場所の都合で12月17日（金）に開催する。また、これの申込書・案内状の作成と発送を行なうことを確認した。

2. 会報の発行
16号、17号の合併号を編集中であることの報告があった。

3. 事務局事務の引き継ぎ
順次行なっていることの報告があった。

（記録：林 篤裕、大隅 昇）

役員改選結果

平成5・6年度日本分類学会役員の改選結果
会則にしたがって、平成5・6年度役員の改選が行なわれました。平成5年7月6日に、選挙管理委員（小西貞則氏、片山清志氏の2名）による開票の結果、会長（信任投票）、運営委員会委員（選出投票）、会計幹事（信任投票）として、以下の各氏が選出され

ました。また、IFCS評議委員会委員（2名）についても併せてここにお知らせいたします。なお、ご報告が大変に遅れましたことをおわびいたします。

会長 上田 尚一（龍谷大学）

運営委員会委員（以下20名，五十音順，敬称略）

赤池 弘次（統計数理研究所）
今泉 忠（多摩大学）
大津 展之（電子技術総合研究所）
大橋 靖雄（東京大学）
片山 清志（（株）日本科学技術研修所）
小西 貞則（統計数理研究所）
杉山 明子（東京女子大学）
高倉 節子（東京女学館短期大学）
田崎 武信（塩野義製薬）
田中 豊（岡山大学）
種村 正美（統計数理研究所）
垂水 共之（岡山大学）
芳賀 敏郎（東京理科大学）
袴田 共之（農業環境技術研究所）
長谷川政美（統計数理研究所）
馬場 康維（統計数理研究所）
松田 芳郎（一橋大学）
水野 欽司（大学入試センター）
宮原 英夫（北里大学）
柳井 晴夫（大学入試センター）

会計監事

塩見 正衛（茨城大学）
大滝 厚（明治大学）

幹事会幹事

幹事長 馬場 康維（統計数理研究所）
庶務幹事 今泉 忠（多摩大学）
広報幹事 林 篤裕（岡山県立大学）

IFCS理事会委員

林 知己夫（統計数理研究所名誉教授）
田中 豊（岡山大学）

IFCS-96担当委員

矢島 敬二（東京理科大学）
大隅 昇（統計数理研究所）

シンポジウム記録

第10回シンポジウム記録

日時：平成4年7月18日（土），13時～17時

場所：統計数理研究所 研修室

参加者：23名（会員18名，会員外5名）

共通テーマ：逐次2分割型の分類手法 - CARTと
AID，あるいはそれを巡る話題の現状 -

これについて以下の3件の発表がなされ，活発かつ有意義な討論が行われた。

データ解析過程における樹木表現の諸法

松原義弘，渡辺秀章，後藤昌司（いずれも塩野義製薬解析センター）

CART（Classification And Regression Trees）で，樹木を刈込み基準をもちいて生成する方法を提案した。これらはCiampiによるRECPAMにもとづくもので，尤度比統計量にもとづく点の特徴である。また，AID法の特徴，扱う説明変数の型についても説明がなされた。これに関連して，生存時間解析における表現や一般化順位統計量についても説明がなされた。また，利用上での注意点についても述べられた。なお，“刈込み”と“併合の方法”，生存率の推定方法等への質問があった。

CARTの応用例について

大滝 厚（明治大学理工学部）

CARTとは何かについての概要が述べられ，また，そのソフトウェアについての説明がなされた。さらに，AIDでの樹木図成長ルールやCARTでの逐次2進分割法について説明がなされた。また，Learning DatasetとTest Datasetについても説明があった。とくに変数の重要度を代理変数というものを定義することにより計算する方法の説明があった。次に，応用例についての紹介と説明があった。応用例として，光化学大気汚染データ，与信管理データの事例が挙げられた。さらに，医学分野での利用例も紹介された。この種の手法と解析方法の特徴・問題点として，利用が容易であるが，モデル選択基準がないこと，出力の整理方法の改善が必要であることなどが挙げられた。とくに，グラフ出力の作成方法や分類基準の設定などについての質問があった。また，カテゴリカル変数がある場合に，その組み合わせを全て行なうかどうかという質問があり，CART自体は網羅的に行っていると思われるとの回答があった。

比例ハザードモデルとAID

芳賀敏郎（東京理科大学），曾田尚弘（山一証券）

寿命データについて，Kaplan-Meier法を用いる場合の分割方法について提案した。この分析では比例ハザードモデルが用いられる場合が多いが，ここで交互作用的な因子の存在まで考慮した分析方法を提案している。その場合に，AID手法によりデータを層別して，各層毎の推定を行なう。また，2進木作成について，その改善案を提案した。その案はカテゴリカル変数については，順序や平均寿命時間を考慮して分割処理の組み合わせ数を減少させ，量的変数については境界値で分割するという案である。課題としては，対話型操作や交互作用をグラフィクス出力する機能の強化拡充，分散項とサンプルサイズの大きさについての評価の必要性があることなどが挙げられた。また，作成プログラムの言語環境，インターフェース環境との関連などについての質疑応答があった。

（記録：今泉忠）

平成3年度決算書

収入の部

平成4年3月31日現在

科 目	細 目	予算額 (単位円)	決算額 (単位円)
会費収入	会費	372,000	400,000
	平成3年度分正会員	(270,000)	(268,000)
	賛助会員		(30,000)
	58～平成2年度未納分	(102,000)	(78,000)
	平成4年度分		(10,000)
	入会金		(14,000)
	平成3年度分		(0)
	58～平成2年度分		
雑収入	予稿集売り上げ	378,000	629,059
	大会・シンポジウム参加費	(18,000)	(13,500)
	(報告集を含む)	(90,000)	(112,500)
	その他		
	広告掲載料	(50,000)	(25,000)
	セミナー収益金、利息	(220,000)	(478,059)*1
計		750,000	1,029,059

注) *1 データ解析セミナー / 3回分 (124,445円、200,000円、150,000円) 474,445円

*2 JCS会報 No.13 (8ページ) 250部 54,000円
 IFCS会報 No.2 (12ページ) 250部 50,000円
 No.3 (10ページ) 250部 32,000円

*3 第9回シンポジウム予稿集 (30ページ) 60部 68,100円
 第8回研究報告会予稿集 (80ページ) 60部 168,000円
 (以上消費税除く)

*4 IFCS分担金 1991年度分 25,766円
 1992年度分 24,441円
 (送金手数料を含む)

*5 統計学会60周年記念事業への寄付金 150,000円

支出の部

科 目	細 目	予算額 (単位円)	決算額 (単位円)
経常運営 関係費	会報印刷代 (JCS会報) (IFCS会報) 会誌印刷代 連絡用印刷費 (総会関連資料、封筒、葉書等)	220,000 (140,000) (35,000) (45,000)	223,522 (54,000)*2 (86,356) (0) (83,166)
大会開催費 (シボゾム含)	報告集印刷代等 開催費 (茶菓子等)	200,000 (160,000) (40,000)	326,423 (277,733)*3 (48,690)
事務費	人件費 (交通費含) 事務用品費 (事務消耗品、手数料他)	205,000 (200,000) (5,000)	360,133 (313,000) (47,133)
通信郵送費	会報送料 会誌送料 切手、その他	70,000 (20,000) (10,000) (40,000)	122,000 (51,840) (0) (70,160)
IFCS運営分担金		30,000	50,207 *4
予備費		25,000	150,210 *5
	計	750,000	1,232,495

収支差額

収入 (1,029,059円) - 支出 (1,232,495円) = 差額 (- 203,436円)

次年度繰越金 321,390円 (前年度繰入金524,826円を含む)
銀行口座 (128,929円)
郵便取り扱い口座 (149,000円)
現金 (43,461円)

監査の結果、上記のとおり相違ない事を証します。

平成4年7月8日 会計監事

塩見 正衛

大滝 厚

平成4年度予算書

収入の部

平成4年4月1日現在

科 目	細 目	予算額(単位円)
会 費 収 入	平成4年度分会費 平成3年度までの未納分	362,000 (268,000) (94,000)
雑 収 入	予稿集売上げ シンポジウム・大会参加費 (報告集代金を含む) 広 告 掲 載 料 セ ミ ナ ー 収 益 金 等	438,000 (13,000) (100,000) (25,000) (300,000)
計		800,000

(注1) 会費収入は次のように算出した('92.3.31現在)

	単位(千円)
平成4年度会費	268
正会員 174人 × 2000円 × 0.6 =	(208)
賛助会員 2口 × 30000円 =	(60)
未納分会費	94
平成3年までの未納分(延べ人数)	
正会員 79人 × 2000円 × 0.6 =	(94)
計	362

(注2) なお、この他に、前年度からの繰越金321,390円がある。

支出の部

科 目	細 目	予算額 (単位円)
経常運営関係費	会 報 印 刷 代 会 誌 等 印 刷 代 (会誌、Bulletin 他) 連 絡 用 印 刷 費	230,000 (150,000) (20,000) (60,000)
大会開催費 (シンポジウム含)	報 告 集 印 刷 代 開 催 費	230,000 (180,000) (50,000)
事 務 費	人 件 費 事 務 用 品 費 他	215,000 (200,000) (15,000)
通信・郵送費	会 報 送 料 会 誌 等 送 料 切 手、その 他	95,000 (45,000) (10,000) (40,000)
IFCS運営分担金		25,000
予 備 費		5,000
	計	800,000

平成4年度決算書

収入の部

平成5年3月31日現在

科 目	細 目	予算額 (単位円)	決算額 (単位円)
会費収入	会費	362,000	386,000
	平成4年度分正会員	(268,000)	(232,000)
	平成4年度分賛助会員		(60,000)
	平成3年度までの未納分	(94,000)	(82,000)
	平成5年度以降の前納分		(10,000)
	入会金		
	平成4年度分		(2,000)
	平成3年度までの未納分		(0)
雑収入	予稿集売り上げ	438,000	412,110
	大会・シンポジウム参加費	(13,000)	(48,000)
	(報告集代金を含む)	(100,000)	(63,500)
	広告掲載料	(25,000)	(0)
	セミナー収益金(注1)	(300,000)	(300,000)
	利息		(610)
計		800,000	798,110

- (注1) データ解析セミナー 2回分 300,000円
- (注2) JCS会報14、15号 14頁 250部 100,000円
- (注3) IFCS会報No. 4～6 各8頁 各250部 80,000円
- (注4) JCS会誌(電子ジャーナル)文書入力費用 83,000円
- (注5) 第10回シンポジウム予稿集 26頁 80部 70,000円
 第9回研究報告会予稿集 38頁 50部 88,000円
 (以上、消費税除く)

支出の部

科 目	細 目	予算額 (単位円)	決算額 (単位円)
経常運営 関係費	会報印刷代 (JCS会報) (注2)	230,000	336,864
	(IFCS会報) (注3)	(150,000)	(103,618)
	会誌印刷代 (注4)	(20,000)	(83,842)
	連絡用印刷費 (葉書等)	(60,000)	(86,108)
		(63,296)	
大会開催費 (シボヅィム含)	報告集印刷代等 (注5)	230,000	200,645
	開催費 (茶菓子等)	(180,000)	(164,003)
		(50,000)	(36,642)
事務費	人件費 (交通費含)	215,000	208,209
	事務用品費	(200,000)	(206,400)
		(15,000)	(1,809)
通信郵送費	会報送料	95,000	96,350
	会誌送料	(45,000)	
	切手、その他	(10,000)	
		(40,000)	(96,350)
IFCS運営分担金		25,000	0
予備費		5,000.	0
	計	800,000	842,068

収支差額 - 43,958円

収入 (798,110円) - 支出 (842,068円) = 差額 (- 43,958円)

次年度繰越金 277,432円 (前年度繰入金321,390円を含む)

銀行口座 (175,539円)

郵便取り扱い口座 (89,000円)

現金 (12,893円)

監査の結果、上記のとおり相違ない事を証します。

平成5年6月25日 会計監事

塩見 正衛

大滝 厚

平成5年度予算書

収入の部

平成5年4月1日現在

科 目	細 目	予算額(単位円)
会 費 収 入	会費 平成5年度分正会員 平成4年度までの未納分	390,000 (262,800) (127,200)
雑 収 入	予稿集売上げ 大会・シンポジウム参加費 (報告集代金を含む) その他 広告掲載料 セミナー収益金	403,000 (13,000) (65,000) (25,000) (300,000)
計		793,000

(注1) 会費収入は次のように算出した('93.3.31現在)。

平成5年度会費

正会員 169人 × 2000円 × 0.6 = 202,800(円)

賛助会員 2口 × 30000円 = 60,000(円)

未納分会費

平成4年までの未納分(延べ人数)

正会員 106人 × 2000円 × 0.6 = 127,200(円)

以上を合計して、390,000円となる

(注2) なお、この他に、前年度からの繰越金として、277,432円がある。

支出の部

科 目	細 目	予算額 (単位円)
経常運営 関係費	会報印刷代 (JCS会報) (IFCS会報) 会誌印刷代 連絡用印刷費 (葉書等)	275,000 (150,000) (25,000) (100,000)
大会開催費 (シボゾム含)	報告集印刷代等 開催費 (茶菓子等)	215,000 (180,000) (35,000)
事務費	人件費 (交通費含) 事務用品費	135,000 (120,000) (15,000)
通信郵送費	会報送料 会誌等送料 切手、その他	130,000 (60,000) (20,000) (50,000)
IFCS運営分担金		25,000
予備費		13,000
	計	793,000

第11回シンポジウム記録

日 時：平成5年7月30日(金), 13時30分~17時

場 所：統計数理研究所 研修室

参加者：37名(会員16名, 会員外21名)

共通テーマ：系統推定におけるパターン認識

これについて以下の4件の発表がなされ、活発な議論が行われた。

樹形と共通祖先：系統推定の対象と情報

三中信宏(農林水産省)

形質状態行列から系統樹を推定する方法について述べられた。そこで扱われる離散数学的な面についても説明がなされた。特に、最節約法について述べられた。また、その適用例も示された。扱っているデータと最節約法の結び付きについて質問があった。

形質情報としては分子は形態より優れている

村上哲明(東京大学理学部)

形質情報として分子形質をもちいた場合について、形態形質との比較をもとにその長所と短所について述べられた。また、実例により、形態形質と分子形質による系統推定の比較もなされた。遺伝子の選択について質疑があった。通常は、研究目的に合った遺伝子を選択するが、論理的はどのような遺伝子でも可能とのことであった。

最尤法による分子系統樹の推定

足立 淳(総合研究大学院大学)

分子系統樹を推定する方法として部分尤度を最大とする最尤法を用いる場合について述べられた。置換確率行列を用いた場合についても述べられた。また、計算時間を短縮するための簡便法について述べられ、従来の方法との比較などがなされた。どのようなデータセットを用いるかなどの重要性についても言及された。

系統推定における情報量

大田邦昌

形質に用いた推定での問題点について論じられた。とくに、形質進化で逆転が生じないとする場合について、尤度をもとにした統計的な推定について論じた。

(記録：今泉忠)

研究報告会記録

第9回研究報告会報告

日 時：平成4年12月25日(金), 13時~17時

場 所：統計数理研究所 研修室

参加者：24名(会員20名, 会員外4名)

高校/大学進学マトリックスの分析

上田 尚一(龍谷大学経済学部)

マルチメディアを利用した統計解析コンサルテーションシステムの開発

林 篤裕(川崎医科大学)

個人の人数が多い場合のMDPREFの利用法

岡太 彬訓(立教大学), 丸茂 淳子(立教大学)

代数曲線による多次元データへの曲線当てはめ

水田 正弘(北海道大学工学部)

たばこ市場におけるPOSデータの分析活用について

- ブランドと店舗の同時分類 -

島川 敏彦(日本たばこ産業(株)), 梶 貴(日本たばこ産業(株)), 大隅 昇(統計数理研究所)

多変量解析による企業の環境貢献度分析

片山 清志((株)日本科学技術研修所), 木村 誠((株)日本科学技術研修所)

(注) 講演内容を記録できませんでしたので、講演タイトルと発表者を列挙するに留めます。

第10回研究報告会報告

日 時：平成5年12月17日(金), 10時30分~16時

場 所：統計数理研究所 研修室

参加者：21名(会員18名, 会員外3名)

AHP-AIDによるアンケートデータの解析

石塚 隆男(亜細亜大学経営学部)

アンケートの回答形式としてよくみられる多肢選択型設問から得られるデータの解析方法を提案した。具体的にはこの様なデータを階層的意志決定問題としてとらえ、その解析法として知られるAHP(Alytic Hierarchy Process)を利用した。またケース・スタディとして、大学病院と一般病院における医師の診療モチベーションの差の解析を例示した。また、この方法とAID法との関連について報告がなされた。

混合分布モデルを用いたLANDSAT画像の解析

- データ構造の視覚化について -

中村 永友(総合研究大学院大学), 小西 貞則(統計数理研究所), 大隅 昇(統計数理研究所)

LANDSATの画像データを未知の混合分布から抽出された多変量特性データと考える。このデータに対して混合分布のパラメータを推定し、推定した混合分布モデルにしたがって分類する方法を提案した。

順位グラフによる分類

村田慶理子(総合研究大学院大学), 馬場 康維(統計数理研究所)

アイテム(並べられるもの)及び判定者(順位を付けるもの)をランキングデータに基づいて分類するために、順位グラフ上のアイテムベクトルとその漸近的な信頼領域を利用する方法を提案した。具体

例として、タバコの銘柄による嗜好の順位を用いて解析を試みた。

ノート持ち込み試験の効用

矢島 敬二（東京理科大学経営学部）

工学部での「技術論」の講義を例に、同じ学生群に対して同様の内容の試験を時期をおいて2回実施した。つまり、まずノートを持ち込み可の試験を行い、その後4ヶ月間隔を置いて、持ち込み不可の試験を行った。これら2つの試験を通して得られたデータを基に、試験の出来具合等を検討した。

AID, CART, MARS, ABLEの特徴と解釈

渡部秀章, 松原義弘, 後藤昌司（いずれも塩野義製薬解析センター）

標題の4つの手法をデータ解析の場で有効に使いわけするには、各手法の特徴と適用上の留意点を把握しておくことが重要である。そこでこれらの手法におけるモデル構築の側面に着目し、これらの方法の特徴を、主効果と交互作用が明確に検出できるか否かによって評価した。

Reducibilityを用いる階層的分類法の提案

高橋 美幸（日本大学理工学部）, 大隅 昇（統計数理研究所）

距離表に基づく階層的分類法ではなく、Reducibility, Nearest Neighbor Chain を用いることで計算時間を短縮し、しかも大量のデータを効率よくクラスター化する分類手法を提案した。なお、この方法の特徴として「初期分類」と「細分類」という2つの段階を用いることがある。

社会科学分野のコア・ジャーナルの析出実験：掲載論文数と被引用回数にもとづく学術雑誌の分類

王 杰, 岸田 和明, 松井 幸子（いずれも図書館情報大学図書館情報学部）

学術雑誌を、その重要性を表す尺度によって順位付け、その中の重要な雑誌群、すなわちコア・ジャーナルを識別、分類する事を目的としている。本報告では、掲載論文数と被引用回数という2つの尺度を使って社会科学の雑誌を順位付け、コア・ジャーナルの析出を試みた。

唇裂口蓋裂患者の歯科矯正治療に伴う歯根吸収の類型化

大塚 純正, 今村 一信, 大森 史枝, 和田 康弘, 柴崎 好伸（いずれも昭和大学歯科病院矯正科）, 大隅 昇（統計数理研究所）

歯科矯正治療の弊害として歯根吸収が挙げられる。唇裂口蓋裂患者の場合、他の疾患も伴っているため、矯正治療自身が長期化し高度の歯根吸収の発生が考えられる。本報告では、歯科矯正治療を終了した唇裂口蓋裂患者に対して歯根吸収の状態を測定し、その分類を行った。

（記録：林篤裕）

IFCS関連だより

第1回IFCS-96大会準備委員会記録

日 時：平成5年9月29日（水）、17時20分～19時30分

場 所：統計数理研究所、特別会議室

出席者：大隅昇, 田中豊, 馬場康維, 林篤裕, 林知己夫, 矢島敬二（以上6名、五十音順）

<議 事>

1. IFCS - 93パリ大会およびCouncil Meeting報告
 - 1) 田中委員より、パリ大会時開催のCouncil Meetingについて報告がなされた。
 - 2) これについて、林（知）委員長が補足説明を行った。
 - 3) 日本での大会を1996年3月に行なうことになったので、開催間隔を考えると1997年をIFCS - 97とするかは今後の検討課題である。なお次回開催場所については、イタリアとなる可能性が高い。
2. 開催場所ならびに開催期日
開催期日の変更に伴う日程表の改編を行なう必要性が指摘された。
 - 1) 大隅委員より開催場所・期間等についての予約状況が報告された。
 - 2) チュートリアルセミナーについて議論を行った。
 - 3) セッションの構成について議論を行った。
3. 大会組織委員会の構成
 - 1) International Scientific Program Committee (ISPC) および Local Scientific Program Committee (LSPC) のメンバーの確認を行った。また、現在のメンバーでカバーしきれない研究分野に対して数名の研究者を追加することとした。
4. 各委員からのサジェッション、コメントの整理・検討
 - 1) プロシャーの内容、トピックスへのコメントの確認を行ない、プロシャーについては田中委員が修正・推敲を行い、次回の会合前までに準備することを了承した。
 - 2) 今後の文書発送先の確認を行った。
5. アナウンスメント、ポスターの作成
 - 1) セッションの構成について議論した。
 - 2) First announcement & Call for papers, 大会ポスターは外注して作成する。
 - 3) 会議の呼称について「IFCS-96大会」と呼ぶことを確認した。
6. 資金の調達活動、管理方法について議論した。
7. 事務処理他
今後の事務処理の進め方について議論を行った。また、大会参加者の規模の推定を行い大まかな参加費を試算した。
8. 共通事項, その他
 - 1) トピックスの決定は早いうちに行なうことを確認した。

- 2) 本会合での決定事項(打診, 案文検討等)に対する役割分担の確認を行った。
- 3) 各種印刷物(封筒, レターヘッド付き用紙)などの準備について議論を行った。
- 4) 田中委員が来期もAwards Committee委員を引き受けることを了承した。
- 5) 3月の開催に難色を示している国に対する対策を検討した。
- 6) 具体的な日程を下記のように決定した。
 - ・開催時期と会場: 1996年3月27日(水)~30日(土), 神戸国際会議場
 - ・チュートリアル・セッション: 3月25日(月), 東京にて行なう予定
- 7) この会合の名称を「IFCS-96大会準備委員会」とすることとした。
- 8) 広報活動について議論を行った。
- 9) 今後の作業を考えて, コンピュータ利用環境の共通化が望ましいとの提案があった。
- 6) 今後の作業の進め方についてすでに決めた各委員の役割分担にしたがって, 円滑に計画が進むように調整する。
- 7) アイシーエス企画への対応
当分は事務局側で作業を進める。どの時点から委託(契約)を行なうかの議論を行なう必要がある。
- 8) 第1回アナウンスメントとして送付する資料の確認
アナウンスメント(第1回call for papersと併せて), 登録カード, この他, 各学会事務局宛に神戸近辺の紹介パンフレット, 神戸国際会議場から送られた英文ガイドブックなどを準備することを確認した。
- 9) 次回会合の日程
開催日時: 1994年1月27日(木), 17時30分からとした。

第2回IFCS-96大会準備委員会記録

日時: 平成5年12月7日(火), 17時~19時30分

場所: 統計数理研究所, 特別会議室

出席者: 大隅昇, 馬場康維, 林知己夫, 矢島敬二
(以上4名, 五十音順)

< 議 事 >

1. アナウンスメント用のプロシヤ案文の訂正
ISPC委員から指摘のあった部分について指摘にそって修正した。
2. 講演の構成について
フランスにならって「基調講演」, 「invited sessions」, 「通常のcontributed speakers」とすることを了承した。
3. トピックスの内容について
 - 1) 田中, 矢島委員のセッション案を, invited sessionのためのトピックスとする。
 - 2) この他に, contributed speakerがサブミットしやすいように, 大きな区分を設けて, この中に関連トピックス・キーワードを入れた部分を用意する。
 - 3) 以上のことに合わせて, invited sessionの一覧の後に「上記のトピックスを含めて, contributed speakerは以下のような広い話題(分野)に関連するトピックスにサブミットすることができる」といった内容の文章をつけ加える。
4. その他の文章
委員一覧, スケジュール, Conference officeの連絡先情報等の内容について議論を行なった。
5. その他
以下の事項を了承した。
 - 1) チュートリアルがあることを文章に入れる。
 - 2) 登録カードの構成について議論を行った。
 - 3) プロシヤ全体のnative speaker's checkを受けることとする。

IFCS-93に参加して

水田正弘(北海道大学工学部)

2年に1回ごと開催されるIFCS(International Federation of Classification Societies)の大会も今回で第4回になりました。第1回は1987年に西ドイツのアーヘン, 第2回はアメリカのシャーロットビル, 第3回は英国のエジンバラ, 今年はフランスのパリで行われました。私は第2回大会に参加しており, 今回は2回目の出席です。前回のIFCS-91エジンバラ大会については, 本会報No.14に統計数理研究所の馬場康維会員が報告されています。

大会は1993年8月31日から9月4日まで, パリのENST(グランゼコールの一つ)を会場として開かれました。私はENSTについての知識がほとんどなく, フランスにおけるNTTに対応する企業の研究所とのイメージを漠然と持っておりまして。しかし, 実際には大学院レベルの高等教育・研究機関であり, 会場で手に入れたパンフレットによりますと, 通信やコンピュータ, 経営学など7つの学科に約160名の博士課程などが開設され, かなり大きい規模で活動しているようです。

第1日の8月31日はチュートリアルの日で, 私は飛行機の関係で参加しませんでした。各3時間の4つのコースが設定され, 各600フラン(約12000円)の費用で受講できたようです。

2日目から4日間かけて, 約150件の講演が40のセッションに分かれて発表されました。また, ポスターセッションとして20件程度の発表がありました。これまでの大会と同様に, 招待講演以外は4つのパラレルセッションであり, いくつかの会場を移動してまわることになります。しかし, 会場が別の建物にあった第2回大会に比べると, 会場は同一の建物にあり移動の不便さは感じませんでした。ただ, プログラム編成上, 仕方がないことではありますが, 興味のある講演が重なって残念な思いをしたのが2, 3ありました。

日本からの参加者は13名で、前回(8名)、前々回(10名)より少し増えています。第2回大会から連続して大会に参加されている馬場康維会員は招待講演をされ、また大隅昇会員は招待セッションをまとめられ、私を含めた4件の発表がありました。

今回の大会は、準備段階からうまく運営されたとの印象を持ちました。帰国後に進めたい研究のネタと宿題を手にいれ、フランスには300種類以上あるというチーズとワインによる Farewell Drink で大会が無事に終了いたしました。また、本会報の別の記事にあるように次回開催は日本でやることが正式に決まりました。

しかし、会場の近くのホテルに帰ったところ、同じホテルに泊まられている田中豊会員と尾高好政会員から、脇本和昌先生が9月4日に逝去されたとのファクシミリが来たことを知らされました。今回、私は大隅会員からの指示で日本におけるグラフィカル手法を紹介いたしました。その手法の大半は脇本先生ご自身の研究または会員からの影響を受けた研究でした。私がグラフィカル関係の仕事をする機会を与えて下さったのも脇本先生でした。脇本先生のご冥福をお祈りいたします。

他学会だより

COMPSTAT-92大会印象記

林篤裕(岡山県立大学情報工学部)

スイス西部の町ヌーシャテル(Neuchâtel)で、COMPSTAT'92が1992年8月24日から28日にかけて開催された。この町は、ヌーシャテル湖の湖畔沿いに細長く伸びた静かな大学町である。COMPSTATは、その名前の由来(COMPutational STATistics)からも判るように、計算機統計学をテーマとする会議で、2年毎にヨーロッパ各地をまわって開催されており、今回で丁度10回目である。

今回の会議では、約400人の研究者が、ヨーロッパを中心に集まってきており、5日間の会期中延べ46セッション、168の発表が行われた。なお、日本からは、統計数理研究所の大隅会員や馬場会員を始め、10人が参加しており、4つの発表を行った。

ここでは紙面の都合上、全部のセッション名を列挙することは諦め、予稿集の3つに分かれたテーマを挙げておく。

Volume 1: Statistics and Modelling (578ページ, 79講演)

Volume 2: More on Computation (440ページ, 57講演)

Volume 3: Non Commercial Packages (62ページ, 14講演)

本学会の名称でもある「分類」に関係しているものでは、Volume 1の中に「Classification and Discrimination」というセッションが設けられ、12の講演が行なわれていた。

この会議の性格上、計算機絡みの話題がほとんどで、純粋に統計理論だけの発表は少なかった。また、日本で行われている統計関係の学会と比較すると、実際のデータに対するアプローチを取り扱った講演

が多く、ヨーロッパでは問題解決の方策として「統計手法」が確立している事を窺わせる。全体的な雰囲気としては、自由で活発な質疑・応答がされており、一方的な発表の場というよりは、議論の場という感じの会議であった。

今回のCOMPSTAT'94は、開催地が一巡して第1回と同じウィーンで1994年8月22日から26日まで開催される予定である。日本の学会と違った雰囲気をこの会議を体験するために多くの方が参加される事を希望する。

第2回 日仏科学協力セミナーに参加して
水田正弘(北海道大学・工学部)

1987年に統数研で開催された第1回日仏セミナーに引き続いて、フランスで第2回の日仏セミナーが行われました。1992年8月31日から9月2日まで、Data Science and its Applications をテーマとして25件程度の発表がありました。会場は、南西フランスの中堅都市であるモンペリエ市のモンペリエ第2大学の講堂です。日本からの参加者は、日本側の研究代表者の林知己夫会員、組織委員の大隅昇会員、馬場康維会員をはじめ10数人、フランス側も含め50人強の参加がありました。

発表時間は質疑応答を含めて1人45分でしたので、ある程度の討論ができたようです。2~3件の発表ごとにコーヒープレイクをとり、同じ建物の別室でカフェやソフトドリンク、もちろんワインなどでひと休みします。昼にはその部屋で、(午後の発表のない人は特に沢山の)ワインを飲みながら昼食をとりました。

フランス側の発表では全く初めて聞くテーマもありましたが、いくつかは日本の学会でも類似の結果が発表されているのを聞いた覚えがありました。発表後、個人的に伺ったところ、日本の研究者と独立に出された成果のようであり研究の交流もないようです。多分、逆のケースもかなりあると思われますので、今回の様なセミナーはお互いにとって有益なものだと感じました。

印象に残った質問(指摘)として、あるフランス人のクラスター数に関する発表の後に「日本ではクラスター分析の研究がなされているのか?」というものがありました。もちろん、多くの研究者が分類学会を中心に「分類」の研究をしており、クラスター数に関する研究などは10数年前にいくつかの成果が発表されているわけですが、最近では手法そのものの研究報告は一時期に比べると減っているような気もしました。

なお、林知己夫会員にはモンペリエの名誉市民の称号が授与されました。今回の私の発表およびパリでの観光情報、盗難防止策まで授けてくださいました大隅会員、馬場会員に感謝いたします。

他学会日より

シンポジウム「地球環境の統計」のお知らせ
地球環境という大規模な問題における統計学としての重要課題を明確にし、社会科学、自然科学、統計科学の交流を図ることを目的として日本学術会議統計学研究連絡委員会、統計数理研究所共催により標記シンポジウムが開催されます

日 時：1994年4月20日（水）13時30分～17時
場 所：統計数理研究所講堂（地下鉄日比谷線
広尾下車）
（港区南麻布4-6-7，phone 03-3446-1501）

講演者：時岡達志（気象研），西岡秀三（国立環境研），竹内啓（東京大学）

連絡先：慶応大学理工学部 渋谷政昭（統計連委員長）TEL 045-563-1141

統計数理研究所50周年記念行事

1994年4月20日，統計数理研究所
応用統計学会1994年度年会

1994年4月21日，統計数理研究所
第8回日本計算機統計学会

1994年5月19日～20日，筑波大学
第62回日本統計学会

1994年7月23日～26日，日本都市センター
（担当：統計数理研究所）

COMPSTAT'94:11th Symposium on Computational
Statistics

Technical University, Vienna, Austria, August, 22-
26, 1994.

International Conference on Statistical Methods and
Statistical Computing for Quality and Productivity
Improvement

Seoul, Korea, August, 18-20, 1995.

International Statistical Institute:50th Biennial
Session

Beijing, People's Republic of China, August, 21-29,
1995.

事務局から

第12回シンポジウム開催

事務局では、ただいま今年のシンポジウムの計画を立案中です。現在日程の検討段階ですが、多数の会員諸氏の参加を期待し、早くお知らせいたしたく、ここに掲載する次第です。

日 時：平成6年9月1日（木）午後

場 所：統計数理研究所

共通テーマ：「現在のクラスタリング手法をとり
まく話題」（仮題）

この内容で現在オーガナイズしております。多くの方の参加をお待ちしております。また、皆様の御意見をお寄せいただければ大いに助かります。

電子ドキュメントの配布サービス

既にお知らせしておりますように、JCS Bulletinファイルの配布サービスを行っております。同じく、JCS CRESS(Classification Retrieval for Electronic Service)という文献登録リストのサービスも初めてあります。ご関心のある会員はお問い合わせください。

寄稿のお願い

JCS ニュースレターへの会員の皆様の寄稿をお願いいたします。国内外の学会に参加した際の印象記や研究会の予定等、会員に知らせたいことなど、広く募集しております。詳しくは事務局までご連絡ください。

会費納入のお願い

平成6年度の会費の納入をお願いいたします。

お詫び

本来なら、17号の発行時期も過ぎておりますが、事務局の怠慢で、会報の発行がすっかり遅れてしまいました。したがって、今回は16、17号の合併号とさせていただきます。改めてここにお詫びいたします。

訃報

脇本和昌先生（岡山大学）が平成5年9月4日に逝去されました。ここに慎んでご冥福をお祈りいたします。

発行 日本分類学会

〒106 東京都港区南麻布4-6-7統計数理研究所気付
Tel. 03-3446-1501

銀行口座 - 三菱銀行広尾支店普通0134368

郵便振込口座 - 東京8 - 83836番